

四苦八苦

四苦八苦（しくはっく）とは、仏教における苦の分類。

根本的な苦を生・老・病・死の**四苦**とし

生...生きていること自体肉体的精神的苦痛が伴う。

老...老いていくこと。体力、気力など全てが衰退していき自由が利かなくなる。

病...様々な病気があり、痛みや苦しみに悩まれる。

死...死ぬことへの恐怖、その先の不安。

根本的な四つの苦に加え、

- 愛別離苦（あいべつりく） - 愛する者と別離すること
- 怨憎会苦（おんぞうえく） - 怨み憎んでいる者に会うこと
- 求不得苦（ぐふとくく） - 求める物が得られないこと
- 五蘊盛苦（ごうんじょうく） - 五蘊(人間の肉体と精神) が思うがままにならないこと

の四つの苦を合わせて**八苦**と呼ぶ。

関連項目

- 苦諦
- 一切皆苦
- 苦 (仏教)

「<https://ja.wikipedia.org/w/index.php?title=四苦八苦&oldid=66412883>」から取得

最終更新 2017年11月25日 (土) 12:43（日時は個人設定で未設定ならばUTC）。

テキストはクリエイティブ・コモンズ表示-継承ライセンスの下で利用可能です。追加の条件が適用される場合があります。詳細は[利用規約](#)を参照してください。